

社会福祉法人ふたば園（法人総括）

令和5年度事業計画に係る概況について報告

(1) 新規事業

- ① 令和5年5月1日より新たなグループホームとして、萩市椿東 3150-8 メゾン八江萩というアパートを10室中6室借り上げ、むたがはらグループホームと名称決定し開設した。
11月までには指導員室を除く5部屋が満室となった。
(5月1名、6月2名、10月1名、11月1名)
- ② デイサービスセンターさんみ苑に訪問介護事業所を開設する方向で検討したが、国の方で当初予定されていたデイサービスと訪問介護の一体型事業が見送りとなった事を受けて実施を見送った。
- ③ 意思疎通支援事業の再受託については、萩市と協議を重ね、令和6年4月から再び受託を開始した。
- ④ さんみ苑従たる施設の整備については設計、設計管理、造成、建設の各契約を完了し、建設工事については令和6年5月から着工している。

(2) 継続事業について<各事業拠点別 事業報告 参照>

(3) 感染症対策

コロナウイルス感染症については令和5年5月から5類に引き下げられたことを受けて、都度、協議を重ね職員の行動基準の見直しや、勤務に関する待機期間の調整等を実施してきたが、感染症対策自体は大きく変更することなく継続している。

令和6年度から事業継続計画（BCP）の策定が義務付けられたことを受けて、ふたば園においては令和5年度中には整備し、その中で感染症対策についても明記している。

(4) 経営計画

a 職員への任用替え

- ・ 令和5年度は在籍職員の任用替えは実施しなかったが、新規採用については例年1回の採用試験を3回実施し、それぞれ、1名（萩商工）、2名（YIC 学院、一般）、1名（一般）を合格とした。（内1名は内定辞退）

b 人材確保について

- ・ 令和5年度の新規採用（内部登用除）・退職は、以下のとおりである。

退職

区 分	正職員	準職員	契約職員	パート職員	合 計
からふる	1	1	1	3	6名
さんみ苑			1	1	2名
ほっとわーく			1		1名
給食				5	5名
デイサービス				2	2名
なないろ	1		1	2	4名
のびっこくらぶ				1	1名
えーる			1		1名
むたがはら GH	1				1名
キーパー				1	1名
合 計	3名	1名	5名	15名	24名

採用

区 分	正職員	準職員	契約職員	パート職員	合 計
なないろ	1		1	2	4名
さんみ苑	1			1	2名
からふる	1		1	3	5名
事務				1	1名
ふらっと				2	2名
デイサービス				2	2名
ほっとわーく			2		2名
合 計	3名	0名	4名	11名	18名

職員数の推移状況は、以下のとおりであった。

	合計	正職員	準職員	再雇用職員	契約職員	パート職員
R4	213人	68人	9人	7人	25人	104人
R5	214人	73人	10人	12人	18人	101人

c 情報化社会への対応

10月からのインボイス制度の始まりを受けて、ふたば園においても適格請求書発行事業者の登録を受けた。制度の開始については大きな混乱なく事業運営できた。

また、電子帳簿保存法の改正に対応すべく、帳票の電子化について推進した。

(5) 職員研修について

a 法人内部研修

・法人の就業規則について（5月） 新任研修（年2回） リーダー研修（年2回） 交流研修 虐待研修 ふたば園カフェ メンタルヘルス研修等、多種多様な研修を実施し、職員の資質向上に研鑽した。

※各研修についてはズームを利用し、各事業所や、自宅においても研修を受けられるよう工夫した。職員間のコミュニケーションが事業所内外を問わず円滑に図れるようふたば園カフェを開催した。

b 各種外部研修

・県内外で開催される各種研修に参加した。

(6) 役員会の開催状況

理事会

開催数	開催年月日	議 題
第1回	令和5年6月9日	・令和4年度事業報告及び令和4年度決算認定について ・理事候補者の推薦について ・監事候補者の推薦について ・令和5年度第1回評議員会の開催について
第2回	令和5年6月27日	・理事長の選任について ・業務執行理事の選任について
第3回	令和6年3月1日	・令和5年度第一次補正予算案について ・理事辞任の承認について ・理事候補者の推薦について ・令和6年度事業計画案及び収支予算案について ・経理規程の一部変更について ・決裁規程の一部変更について

		<ul style="list-style-type: none"> ・職員給与規程の一部変更について ・組織規程の一部変更について ・特別職員就業規則の一部変更について ・旅費規程の一部変更について ・育児・介護休業等に関する規程の一部変更について ・スキヤナによる電子化保存の取扱い規程の制定について ・電子取引データの取扱い規程の制定について ・さんみ苑分室工事伴う金融機関からの借入について ・令和5年度第2回評議員会の開催について
--	--	---

評議員会

開催数	開催年月日	議 題
第1回	令和5年6月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度事業報告及び令和4年度決算認定について ・理事候補者の推薦について ・監事候補者の推薦について
第2回	令和6年3月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度第一次補正予算案について ・理事辞任の承認について ・理事の選任について ・令和6年度事業計画案及び収支予算案について

(7) 監 査

- ・令和5年度 決算監査（令和5年5月29日実施）

(8) 会議開催

a 施設長会議

毎月の定例会議と、必要に応じ随時開催した。法人運営上の基本的課題等について協議するとともに、コロナ対策や施設整備、人事について協議を重ねた。

b 管理職務者会議

月1回の定例開催とし、各事業の報告やワーキング会議の報告などを受けて協議を行った。

c その他

事業毎に関係機関との連携・連絡会議に参加した。

(9) 情報提供

法人事業のインターネットを通じて情報発信・公告の拠点として、ホームページを運営した。

(10) 地域活動

- ・ふたば園まつりはコロナ感染症の動向を見ながら開催の可否について協議したが、準備期間の確保が難しいため令和5年度も中止としたが、ふれあい食堂と称して、8月と3月で年2回開催し、地域の子供たちを中心に食事の提供とゲーム等のレクリエーションを通して交流を図った。
- ・さんみ地域の公民館祭りについては、障害部門が焼きそばの販売、高齢部門が相談ブースの開設で参加した。
- ・社会福祉協議会が主催する地域公益活動推進協議会に参加した。
- ・法人が管理する施設設備等の活用推進について
からふる内のおもちゃ図書館の地域開放については通常通り行った。
土原事業所の会議室を地域活動団体に貸し出した。

(11) 中長期計画

3月の社会福祉協議会主催の災害研修に参加し、災害に備えての見識を深め備蓄食料や、ライフラインへの備えについて検討した。

子ども発達支援センターからふる

重点事業方針取組結果（総括）

障害や発達に弱さのある児童への発達支援や、家族に対してサポートを行う家庭支援、地域の中でセンター的な役割を果たす地域支援に取り組み、子どもたちや保護者、地域の関係機関から信頼を得られるように事業の充実を図るように努めた。

関係機関や地域との連携や、発達の気になる児童への早期からの支援の必要性の理解が進んでおり、子どもの出生率は減少傾向にあるものの、当センターの児童発達支援事業については、昨年に比べて契約数は増加となった。特に、萩市が行う5歳児相談後（秋頃）から待機児童が増える傾向が続いている。保育所等訪問支援事業についても同様、5歳児相談会後から契約者が増加する傾向が近年続いている。

児童発達支援センターの役割として、児童発達支援を行うほか、施設の有する専門性を活かし地域支援を担うことも期待されており、サービスの質やサービス提供の在り方の検討や、職員の専門性を高めていくことが今後の課題である。また、人材確保についても検討していく必要がある。

児童発達支援事業

- ・一人一人の子どもの生育歴や障害特性、家庭状況等細やかにアセスメントを行い、子どもや保護者との信頼関係を築きながら、丁寧な支援を行うように努めた。
- ・面談や親子療育等の機会を通して保護者と積極的に話す機会をつくり、子育ての不安軽減を図り、安心して前向きに子育てに取り組むことができるように努めた。
- ・年長児を対象に、就学説明会や学校訪問、学校体験の機会を提供した。また、引継ぎ資料を作成し、就学先の担当者に引継ぎを行う等の連携を図り、安心して親子が就学を迎えることができるよう取り組んだ。
- ・療育や行事等については感染状況をみながら可能な限り予防策を講じて実施した。また、療育メニューの工夫や、環境調整しながら、利用児童や保護者に安心して利用していただけるように努めた。
- ・園のお知らせや感染症等の情報を、メール配信ツールを活用してタイムリーに保護者に情報提供を行うよう努めた。
- ・毎月事業所内研修やオンライン研修等を活用して職員の資質向上に努めた。
- ・萩市5歳児相談会への参加や保育園巡回等、地域の発達が気になる子どもの相談や支援に努めた。
- ・おもちゃ図書館は新型コロナウイルスの感染状況をみながらで開館し、子育て

相談や手作りおもちゃの会など地域の子育て支援に努めた。

保育所等訪問支援事業

- ・訪問先の保育園等に事業の理解がすすみ、担当者同士の情報交換の機会が増え支援の充実につながった。
- ・担当者一人が支援を行うため、支援方法について定期的にケース会議をもち、偏った支援にならないように多方面から分析を行い、支援内容の充実を図った。
- ・発達特性も様々で、その場で臨機応変に支援を行えるための力量が求められることから、職員の専門性を高めていくことが課題である。

《委託事業》

山口県在宅障害児療育支援事業

- ① 在宅支援外来療育等支援事業・・・148回
* 1歳半健診、3歳半健診、5歳児相談後のフォローの場として親子教室を開催し、理学療法士や臨床心理士による個別相談や指導を行った。
- ② 施設支援一般指導事業・・・58回
* 保育園等の施設に訪問して、発達が気になる子どもへの支援方法について、職員に対して助言等を行った。

萩市発達障害児地域支援体制強化事業

- ① 7月、10月、12月、1月に発達障害児に関わる方を支援者対象の講演会を実施した。
参加者合計…192名
- ② 年間8回ペアレントメンターグループ相談会を実施した。
相談者合計…28名

日中一時支援事業

- ・からふるのみ利用されている児童を対象に、7名の受け入れを行なった。

令和5年度利用実績 児童発達支援事業：定員30名 * () はR4年度実績

	契約数	利用延人数	開所日	平均利用者数	稼働率	前年比
4月	58 (54)	652 (542)	20 (18)	32.6 (30.1)	108.7 (100.4)	108.2
5月	61 (57)	661 (568)	21 (17)	31.5 (33.4)	104.9 (111.4)	94.2
6月	60 (58)	703 (708)	21 (21)	33.5 (33.7)	101.9 (112.4)	90.7
7月	61 (58)	664 (632)	21 (20)	31.6 (31.6)	105.4 (105.3)	100
8月	61 (59)	473 (445)	20 (20)	23.7 (22.3)	78.8 (74.2)	106.2
9月	61 (58)	660 (578)	21 (19)	31.4 (30.4)	104.8 (101.4)	103.4
10月	57 (60)	679 (524)	23 (18)	29.5 (29.1)	98.4 (97)	101.4
11月	62 (61)	543 (648)	19 (21)	28.5 (30.9)	95.3 (102.9)	92.6
12月	62 (62)	641 (503)	21 (16)	30.5 (31.4)	101.7 (104.8)	97
1月	63 (62)	622 (628)	20 (19)	31.1 (33.1)	103.7 (110.2)	94.1
2月	63 (63)	645 (668)	20 (19)	32.3 (35.2)	103.7 (117.2)	88.5
3月	62 (63)	579 (633)	23 (21)	25.2 (30.1)	83.8 (100.5)	83.4

*今年度はPT訓練を休日開園（12日/年）したため、稼働率の年平均は99.3%であるが収入は概ね例年並みである。

*体調不良等での欠席や、併行利用が多いことから保育園や幼稚園の行事等の影響を受けやすい状況にある。

*8月は新型コロナウイルスの感染により休園や併行利用の受け入れを中止した。また、11～12月はインフルエンザによる休園や欠席が目立った。

令和5年度利用実績 保育所等訪問支援事業 * () はR4年度実績

	契約数	実利用者数	利用延人数	前年度比
4月	9 (6)	9 (6)	19 (9)	211.1
5月	11 (8)	11 (8)	19 (12)	158.3
6月	16 (9)	16 (9)	24 (12)	200
7月	16 (11)	16 (11)	28 (16)	175
8月	16 (12)	16 (8)	23 (12)	191.6
9月	17 (12)	17 (12)	30 (20)	150
10月	19 (14)	19 (8)	35 (8)	437.5
11月	18 (18)	16 (15)	27 (26)	103.8
12月	18 (19)	17 (16)	26 (25)	104
1月	19 (18)	19 (16)	30 (30)	100
2月	19 (18)	18 (16)	28 (30)	93.3
3月	20 (18)	20 (17)	34 (33)	103

*昨年度は新型コロナの影響により大幅な減少があったため、今年度は概ね例年並み。

*5歳児相談会後（夏～秋頃にかけて）から利用希望が増加する傾向がある。

*訪問先の行事や保護者の都合で利用調整が難しく支援提供の頻度が減ることもあった。

放課後等デイサービスのびっこくらぶ・えーる

重点事業方針取組結果（総括）

発達年齢に応じた支援の充実に重点を置き、それぞれの事業所で子どもたちがのびのびと楽しく安心して過ごせるように、療育支援・余暇支援・家庭支援に取り組んだ。利用児童の障害特性や家庭状況も様々であることから、関係機関である学校と連携して情報共有を行いながら、個々の発達状況に応じた支援を行った。

のびっこくらぶ（小学生対象）は、例年並みの契約者数及び稼働率を確保できた。えーる（中高生対象）については、今年度は萩総合支援学校に限定して、小学生の受け入れを試行的に行った。そのことにより、契約者及び稼働率はやや増加の兆しはみられたが、今後のサービスの在り方について更なる検討が必要と考える。

のびっこくらぶ

- ・学校や学年によって利用日を振り分けて、それぞれの児童の課題や目的に応じた、集団及び個別の支援を提供できるように努めた。
- ・集中しやすい環境を整え、タブレットやカード等を活用して視覚支援を行うことで、自発的かつ意欲的に課題に取り組むことができるようになった。
- ・地域の社会資源（公園や博物館等）を積極的に活用して、様々な経験ができるように努めた。
- ・トラブルも多いが友達同士で励ましあったり、助け合ったりしながら活動を楽しむ姿が増えてきた。自分たちで考えたり、話し合ったりする場面を増やしていくことで、活動に対する意欲が見られるようになった。
- ・手洗いやマスクの着用などの感染対策への意識づけを継続して取り組んだ。
- ・小学校や児童クラブなどの関係機関と定期的に情報交換、ケース会議等を行いながら、本人の目標や課題、支援について共有する機会をもった。

えーる

- ・萩総合支援学校に限定して、小学生受け入れを行なった。事前にアンケートや親子での見学及び説明会等を行なったことでスムーズに利用を開始することができた。
- ・環境を整え視覚支援を行うことで、児童が自発的かつ意欲的に活動に取り組める場面が増えてきた。また、スケジュールの提示やコミュニケーションツールとして、タブレットの活用方法の検討を行った。
- ・個々の能力に応じたお仕事活動で、アクセサリーやストラップ等の作品作りに取り組み販売を行う機会をもつ等、目的をもって積極的に活動に取り組めるよう努めた。
- ・活動内容を話し合う機会を持ち、本人たちの希望を取り入れることで、主体的

に活動への参加を促すことができた。

- ・地域の社会資源（公園や博物館等）を積極的に活用して、様々な経験ができるように努めた。
- ・手洗いやマスクの着用などの感染対策への意識づけを継続して取り組んだ。
- ・学校や関係機関と定期的に情報交換、ケース会議等を行いながら、本人の目標や課題、支援について共有する機会をもった。

令和5年度利用実績 のびっこくらぶ：定員10名

* () はR4年度実績

	契約数	実利用者数	利用延人数	開所日	平均利用者数	稼働率	前年比
4月	52 (51)	42 (46)	236 (260)	22 (24)	10.7 (10.8)	107.3 (108.3)	99.1
5月	52 (51)	48 (49)	261 (248)	24 (24)	10.9 (10.7)	108.8 (107.8)	100.9
6月	52 (54)	49 (50)	278 (272)	25 (25)	11.2 (10.8)	111.8 (108.8)	102.8
7月	51 (55)	45 (49)	243 (258)	22 (23)	11.1 (11.2)	110.5 (112.2)	98.5
8月	51 (53)	47 (47)	237 (164)	22 (20)	10.8 (8.2)	107.7 (82)	131.3
9月	51 (51)	47 (42)	257 (194)	24 (22)	10.7 (8.8)	107.1 (88.8)	121.4
10月	52 (49)	48 (43)	243 (219)	25 (23)	9.7 (9.5)	97.2 (95.2)	101.6
11月	53 (48)	49 (43)	250 (233)	24 (24)	10.4 (9.7)	104.2 (97.1)	107.3
12月	53 (48)	50 (44)	251 (226)	23 (23)	10.9 (9.8)	109.1 (98.3)	111
1月	53 (48)	49 (40)	235 (238)	22 (22)	10.7 (10.8)	106.8 (108.2)	98.7
2月	53 (48)	50 (39)	233 (236)	23 (22)	10.1 (10.7)	101.3 (107.3)	94.4
3月	53 (48)	50 (39)	233 (249)	24 (23)	9.7 (10.8)	97.1 (108.3)	89.7

*10、3月は新型コロナやインフルエンザやインフルエンザ等感染症の影響により利用が減ったが、稼働率の年平均は105.6.%で、昨年度よりも伸びている。

*昨年度同様、定員に対して利用希望が多く毎月利用調整を行った。

令和5年度利用実績 えーる：定員10名

* () はR4年度実績

	契約数	実利用者数	利用延人数	開所日	平均利用者数	稼働率 (%)	前年比
4月	25 (17)	23 (14)	152 (118)	22 (24)	6.9 (4.9)	69.1 (49.2)	140.4
5月	26 (18)	22 (15)	151 (116)	24 (22)	6.3 (5.2)	62.9 (52.7)	127.8
6月	26 (19)	23 (16)	151 (130)	25 (25)	6.0 (5.2)	60.4 (52)	116.2
7月	26 (20)	23 (16)	165 (142)	22 (23)	7.5 (6.1)	75 (61.7)	121.6
8月	26 (21)	24 (18)	173 (136)	22 (22)	7.9 (6.1)	78.6 (61.8)	127.2
9月	26 (21)	22 (17)	154 (105)	24 (21)	6.4 (5.0)	64.2 (50)	128.4
10月	26 (21)	22 (17)	135 (123)	25 (25)	5.4 (4.9)	54 (49.2)	109.8
11月	26 (21)	22 (17)	150 (136)	24 (24)	6.3 (5.6)	62.5 (56.7)	110.2
12月	26 (21)	22 (17)	160 (141)	23 (23)	7.0 (6.1)	69.6 (61.3)	113.5
1月	26 (21)	23 (17)	146 (121)	22 (22)	6.6 (5.5)	66.4 (55)	120.7
2月	26 (21)	22 (17)	162 (131)	23 (22)	7.0 (5.9)	70.4 (59.5)	118.3
3月	27 (21)	23 (17)	153 (156)	24 (23)	6.4 (6.7)	63.8 (67.8)	94.1

*年平均稼働率は66.1%で、昨年度 (56.3%) と比較して、概ね10%上昇している。

*利用者同士の関係性等により安全面を考慮して、その場合のみ利用調整を行った

*10月は職場実習等により利用が少なかった。

なないろ

重点事業方針取組結果（総括）

1. 新しい生活様式の取り込みと地域とのつながり

来館者への検温測定をやめるなど、多少の変更は行いましたが、相変わらず年間通じて新型コロナウイルスの影響はあり、マスクの着用などは継続する形となりました。地域の中でマスクの着用が推奨されている部分を除いて、少しずつ緩和されている状況のため、戸外活動の際には、状況に合わせて支援を行う形に変更しております。就労A型では総菜の販売、就労B型ではリサイクルの拡充、生活介護では委託による作業の開始など、地域と利用者とのつながりを意識した内容を増やしていくなど地域密着型の施設としての実践をそれぞれの事業で行いました。

2. 利用者主体を考えた支援

利用者主体を考えた支援は昨年度の反省も含め、「待つ」に加え「選択する」ということをキーワードとして支援を行いました。色々な場面で利用者が自分で選択して行動する場面を設定することにより、待つ時間が減少して活動を楽しめる時間を増やしていくことができるようになっていきます。また、「YES・NO」だけでなく、活動の内容や次の行動を選ぶことができることで、利用者が安定して過ごせることに繋がり、利用者同士のトラブルや事故等が令和4年度に比べて減少しています。

3. チーム力と専門性の向上

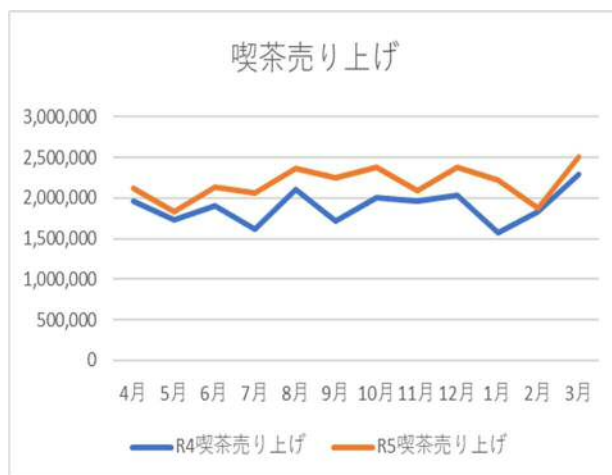
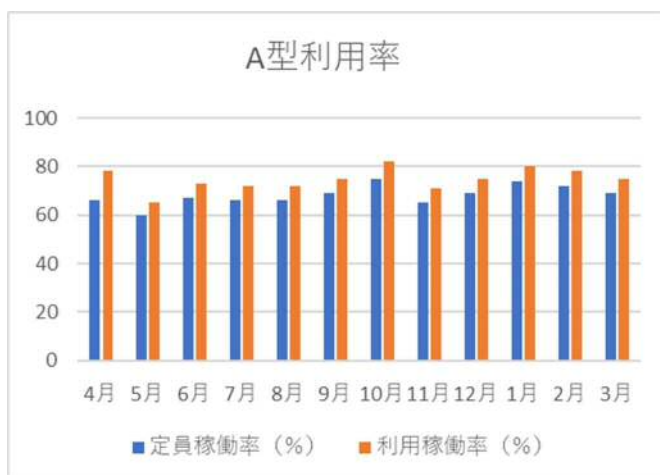
なないろハンドブックを作り、できる限りのマニュアル化と年間を通しての「新人教育」は継続して行いました。それに加えて、先輩職員が新任職員への指導を行うOJT制度を取り入れました。仕事内容を指導する職員を決めることで、新任職員が聞きやすい状況を作り出すことや、一緒に様々な仕事をしていくことで指導する職員も課題を認識して指導方法を考えていくことに繋がっています。

事業所内研修では、職員が講師をする機会を作り、一人ひとりが意識的に勉強することや考えることができる機会を設けました。

就労継続A型事業

精神疾患を有する利用者が安定して働けず、入院や長期休業を繰り返すことで、利用率は伸び悩みました。施設外就労等も取り入れ、利益を作り出す試みも行いましたが、働く利用者が安定しないことで、職員の負担に繋がってしまう状況がありました。

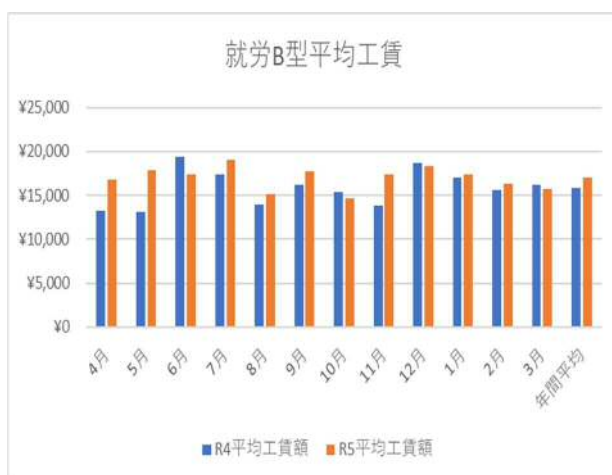
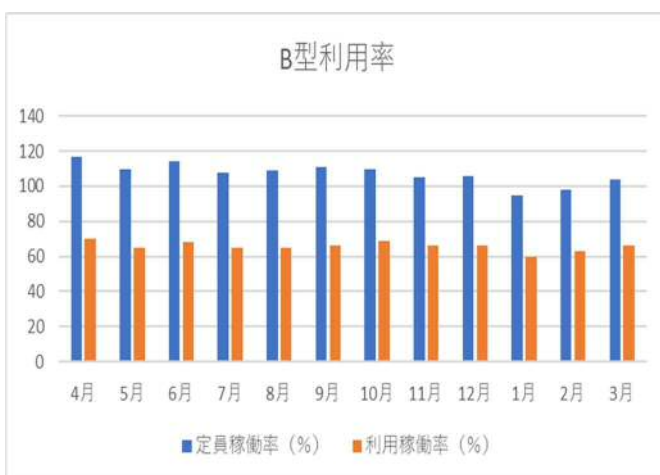
物価高騰で値段の引き上げを行いました。顧客の減少には至っておらず、少しずつ売り上げは上昇傾向にあります。特に様々な時期での特別弁当の注文が多くなり、地域の皆様に広がってきている状況があります。しかし、損益を考えた場合には物価の高騰の影響が大きい状況は変わっていません。



就労継続B型事業

年明け（1月）の新型コロナウイルスの影響を受け、3日間の休業をしています。また、物価高騰の影響で発注していた物の値段が高く、利用者の工賃が下がる状況がありました。そこで、令和3年度に続き令和5年度も工賃変動積立金を取り崩して工賃としてお支払いしました。

現在、地域に就労継続支援事業所が増えている状況にあります。ご本人が働きたい場所で働くことを自由に選ぶことを支援することから、実習を行い2名の方が別の事業所へ移行されました。また、1名の一般就労への移行と1名の入所施設への移行があるなど、様々な理由により6名の方の退所となりました。



生活介護

今年度は5名の方が家庭から居住支援事業所への移行がありました。地域では入所ができない状況があり、他市の入所施設に行かれ、就労B型と同様で退所に繋がるケースがありました。家族の高齢化が進んでおり、その状況は今後も続くと考えています。強度行動障害のある利用者の利用が、現時点で58%となっています。色々な利用者がおられる中で、皆さんが安定して過ごせる環境の構築や特性に合わせた支援などが課題となっています。



就労定着支援

利用者0の状態が継続している状況です。

日中一時支援

現在サービスを利用できていない在宅障害者の家族の緊急時に伴い、一時的な預かりとして日中の支援提供をしました。

その他報告事項

5年度も、全ての事業で満足度調査を実施いたしました。概ね満足しているという意見が多かったものの、「職員の対応のばらつき」や「計画の説明不足」「色々な利用者があることでの環境の不安感」「悪天候等による対応の連絡の遅さ」などのご意見をいただきました。説明と対応については保護者会総会で行い、なないろ掲示板に掲示しております。

むたがはらグループホーム

重点事業方針取組結果（総括）

1. 利用者特性に応じた支援と職員の専門性の向上

新しいグループホームとして職員も一新した状況でのスタートであった。障害児（者）への関わりの経験がない職員もいたため研修を実施し、障がいやその特性の研修を実施しています。そこから、居住者一人ひとりの状況や状態、特性を毎月1回の会議で話し合うことや交代勤務による情報の周知をラインワークス等で行ってきました。現在、精神の方の利用が多い状況であり、日ごとで体調が変わるため、その日のラインワークスでの連絡は非常に有効でした。

2. 仲間意識への支援

コロナ禍で利用者同士の交流が希薄になってきていましたが、満床になった時に交流会を行いました。第1と第2の場所が離れていることもあり、初めて顔を合わせる利用者もおられました。その後からお互いが挨拶をしあうなどの変化も見られ、今後も定期的にも実施していく予定です。

3. 個々に応じた支援

一般就労3名、就労継続支援A型1名、就労継続支援B型5名、日中活動利用無1名の10名が居住され、満床となりました。利用者それぞれの生活スタイルが異なりますが、アパートタイプとなっていることで、一人の生活が保障され、対人でのトラブル等はありませんでした。また、より一人ひとりが自立した生活を送っていくことを希望されており、中には一人暮らしを希望している利用者もおられ、地域生活への移行に向けた支援等の開始を予定しています。また、一人暮らしをしていたが生活が難しくなった利用者に関しては、アセスメントを行い自分でできることは継続して行えるように支援を行っています。

4. その他

○第1むたがはらほ一むは居室への雨漏り等が発生し、外壁の大型修繕を行いました。

○第2むたがはらほ一むは、一般居住者も同じアパートに住んでおり、近所トラブルが数回発生いたしました。共生生活を実現するために、その都度、状況の説明と今後の対応についてお話をさせていただき、徐々に理解を深めていただいている状況です。

萩市障害者支援施設さんみ苑（指定障害者支援施設）

重点事業方針取組結果（総括）

1. 新施設での支援を見据えた体制作り

令和7年4月開設予定のさんみ苑の従たる施設での支援を見据え、生活介護事業（日中活動事業）の利用率向上を目指しました。

具体的な対応として長門市内に実施していた送迎を週4日から週5日に増便し、週当たりの延べ人数が8名増加（月30名）しました。年間の延べ利用者数では、前年度と比較し、285名の増加となりましたが、利用率100%の達成までは、今後10名の新規利用者が必要となります。

また、医療的ケアが必要な利用者の受入れとして、4月から1名の受入れを開始した。これにより、医療的ケアを実施している利用者が3名となった。体制作りとして2名の職員（介護福祉士）が喀痰吸引の研修を受講し、認定特定行為業務従事者の資格を取得しました。

2. 入所者の高齢化への対応

高齢利用者について、令和4年度末に3名、5年度についても3名の利用者が、高齢者施設（特養・有料老人ホーム）、医療機関へ入院となり、事業所を退所されました。その結果、令和4年度の平均年齢58歳（女性60.3歳）であったものが、令和5年度末には平均年齢54.6歳（女性52.5歳）となり、65歳以上の利用者数も11名から6名に減少しました。現在も70歳以上の利用者が4名おられますが、個々の状況に応じ、必要な対応を継続しています。

3. 萩市緊急安心サポート事業の受託

令和5年4月より萩市が地域拠点整備事業の一環として行う『萩市緊急安心サポート事業』を受託しましたが、実績はありませんでした。従来のショートステイ事業を利用し、緊急対応を行った件数が2件ありました。

令和5年度 萩市障害者支援施設さんみ苑 事業別利用実績

施設入所支援事業	実利用者数	延べ利用者数	開所日数	平均利用者数	前年度 (令和4年度)	前年度比	前前年度 (令和3年度)	前前年度比 (令和3年度)	備考
4月	30	814	30	27.1	850	95.8%	860	94.7%	新規2名
5月	30	831	31	26.8	844	98%	879	94.5%	新規1名
6月	30	823	30	27.4	825	100%	859	95.8%	
7月	30	835	31	26.9	826	101%	880	94.9%	
8月	30	843	31	27.2	833	101%	877	96.1%	
9月	30	816	30	27.2	845	97%	855	95.4%	退所1名
10月	30	869	31	28.0	882	99%	882	98.5%	新規1名
11月	30	853	30	28.4	859	99%	858	99.4%	
12月	30	855	31	27.6	803	106%	877	97.5%	
1月	30	842	31	27.2	809	104%	864	97.5%	
2月	30	768	28	27.4	718	107%	792	97.0%	退所1名
3月	30	811	31	26.2	788	103%	883	91.8%	新規1名・退所1名
集計		9,960	365	27.3	9,882	101%	10,366	96%	

生活介護事業	実利用者数	延べ利用者数	開所日数	平均利用者数	前年度	前年度比	前前年度	前前年度比	備考
4月	53	881	22	40.0	863	102.1%	891	98.9%	
5月	53	897	23	39.0	855	105%	872	102.9%	
6月	53	902	22	41.0	885	102%	905	99.7%	
7月	55	890	23	38.7	891	100%	846	105.2%	
8月	54	910	23	39.6	804	113%	888	102.5%	
9月	56	867	22	39.4	850	102%	864	100.3%	
10月	56	925	23	40.2	921	100%	926	99.9%	
11月	56	896	22	40.7	896	100%	874	102.5%	
12月	55	906	23	39.4	889	102%	897	101.0%	
1月	54	876	23	38.1	848	103%	810	108.1%	
2月	54	829	21	39.5	791	105%	758	109.4%	
3月	54	915	23	39.8	914	100%	882	103.7%	
集計		10,694	270	39.6	10,407	103%	10,413	103%	

短期入所支援事業	実利用者数	延べ利用者数	開所日数	平均利用者数	前年度	前年度比	前前年度	前前年度比	備考
4月	6名	26	30	0.9	68	38.2%	28	92.9%	
5月	5名	29	31	0.9	63	46%	36	80.6%	
6月	6名	36	30	1.2	60	60%	48	75.0%	
7月	6名	26	31	0.8	59	44%	52	50.0%	
8月	8名	33	31	1.1	41	80%	46	71.7%	
9月	3名	10	30	0.3	45	22%	57	17.5%	
10月	8名	41	31	1.3	58	71%	57	71.9%	
11月	6名	35	30	1.2	42	83%	50	70.0%	
12月	5名	33	31	1.1	24	138%	53	62.3%	緊急対応
1月	6名	29	31	0.9	20	145%	54	53.7%	
2月	4名	50	29	1.7	69	72%	30	166.7%	緊急対応
3月	7名	63	31	2.0	81	78%	45	140.0%	
集計		411	366	1.1	630	65%	556	74%	

◇各事業の様子及び利用実績について◇

入所支援事業については、新規入居者が5名、退所者が3名（前年度末退所者2名）となった。新規入居者のうち、2名は、施設に慣れるため、短期間（例/1泊2日）利用から開始し、徐々に施設での生活時間を延ばしていき、本人の意向が少しでも反映できるように努めた。高齢者施設への移行については、関係機関と連携し、高齢デイサービスの利用や特養等への見学等、事前にその事業所の様子を理解した上で選択ができるように努めた。

短期入所については、12月に緊急受け入れが1件、2月から長期受け入れが1件あった。

さんみ苑グループホーム(共同生活援助事業所)

重点事業方針取組結果（総括）

「地域の中で自分らしく暮らす」の理念のもと、入居されている方々がそれぞれのライフステージやライフスタイルに合わせた生活が送れるように支援を継続しました。

1. 車いす利用者が避難行動を行うためのスロープ設置について

当初、車いす利用者の居室外窓から直接、避難用スロープを設置する計画であったが、安全性やその後の運用等の課題が生じた為、中止とした。代替措置として、該当利用者の居室を棟の出入り口から近い部屋へ移した。

2. 発達障害者等、重度支援対象者に対して専門的な視点での支援実施について

支援区分4かつ重度支援加算対象の入居者が入られ、障がい特性などに専門的な関わりが必要な状況であった。その為、従来の世話人に加え、専従の生活支援員を配置し、専門研修（強度行動障害支援者養成研修）を受講した。この職員を中心に、『視覚的に伝える』ことを意識し、対象となる入居者の支援を実施した。

3. 余暇活動の充実

年間行事として、花見、BBQ、クリスマス会を開催し、入居者間の交流を図った。また、9月に希望者でプロ野球観戦（福岡市）をおこない、活動内容・規模を広げた。

休日向けに、映画鑑賞やカラオケができる設備を整え、好きな時に活用できるようにした。また、買い物の支援や自主外出の調整にも力を入れ、入居者それぞれが望む生活の実現にむけて支援を実施した。



入退所（利用率）の状況について

令和5年度の利用率は、概ね、定員12名を満たす形で推移した。7月に女性入居者1名が退所され、9月に新しい方が入居した。

令和5年度利用率	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	351	344	344	341	332	329	366	350	360	343	324	369
開所日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31
									平均利用者数			11.3

萩市デイサービスセンターさんみ苑(高齢通所サービス事業所)

重点事業方針取組結果(総括)

令和5年度は、コロナウイルス感染拡大によるクラスター発生や休園はなく、5類の扱いになったものの、感染予防・対応は、変更することなく前年度同様に行った。感染症に対するイメージや外出への不安や体調不良時の自宅療養の長期化、入院・入所の増加が継続的にみられ、新規の利用者も少なく、結果的に利用者数は伸びていない。50名の定員に対し、稼働率50%となっている。ここ数年の利用者数の減少と稼働率の低さを理由に、令和6年4月より定員数を35名とした。令和6年度介護報酬改定において、基本単価は増額したものの、機能訓練加算の減額により、結果的にはほぼ変わらず。中重度ケア体制加算は、来年度も算定不可。認知症加算については、認知症度Ⅲa以上の割合が15%以上で算定可となったため、来年度も引き続き算定する。令和5年12月に、認知症実践者研修を1名修了し、合計2名となったため、利用日ごとに安定した加算の算定ができています。令和6年度も1名受講予定。

利用者の自立支援と意欲の向上に注目し、午前中の活動の充実を図った。生活に密着した活動や作業を準備し、個別に合わせた活動、機能訓練に取り組むことができています。

虐待防止の取り組みとして、定期的(3ヶ月に1回)に虐待防止委員会を開催し、不適切ケアチェックリストの実施、身体拘束適正化における研修等も加えて実施した。職員の虐待防止に対する意識も高くなったと感じる。

今後も、サービス内容の充実、個別の生活に沿った訓練や活動を基本に、地域にある施設ふたば園としての役割を果たせるよう、介護予防の方や障がいがある方の利用を積極的に受け入れていく。

通所介護事業

個別の生活に直結した目標を設定し、生活動作に沿った機能訓練の提供を継続して行った。認知症の方で個別対応が必要な利用者の割合が増加しており、専門的な介護技術が必要となっている。生活相談員による、丁寧な情報発信や連絡調整を行い、家族やケアマネージャーとの連携強化を図った。

介護予防・日常生活支援総合事業

要介護にならず、要支援の状態を維持できている利用者が多くみられる。自宅や地域での役割、健康状態を維持できるよう、機能訓練、口腔ケア、活動を提供した。利用者同士の交流も活発で、お互い励まし合いながら、楽しく過ごすことができています。さんみ苑が、地域の方同士の集いの場として定着している。

共生型生活介護事業

共生型生活介護事業も5年目となり、今年度の利用者は3名。「風呂がいい。よくしてもらえて助かる。楽しいです。」と喜びの声も多く聞かれる。職員も、障害

のある方への関わりに慣れ、個人の特性に合った関わりができています。今後も、共生型生活介護をうまく活用し、高齢者サービスへの移行がスムーズにいくよう、地域の施設としての役割を果たしたい。

萩市介護予防教室

生活自体は自立しているが、コロナウイルスの拡大等により、刺激の少ない生活を送っている利用者が多くみられる。地域活動やサロンへの参加にもつながるよう、在宅介護支援センターと連携した。今後も、地域の中の安心して相談できる場所、居場所づくりになるよう取り組む。

その他報告事項

○感染予防・健康管理の継続

送迎前の検温と体調確認、手洗い、アルコールによる手指と器具の消毒、定期的な換気、マスク着用の徹底を行い、感染予防を継続して行った。口腔ケア、適切な水分摂取の声掛け等を行い、脱水予防・健康維持に取り組んだ。職員は定期的に抗原検査を実施し、感染拡大の予防を行った。

○委員会活動の強化

虐待防止委員会も3年目となり、職員の意識も高まってきている。職員同士が指摘・助言し合えるようにもなっている。食事・入浴・活動・看護の各委員会は、日々の業務の課題を抽出し、検討⇒早急な改善⇒振り返りを継続して実施。各委員会が研修を実施し、職員のスキルアップにもつながっている。

○人材育成

障がい者支援施設の職員との連携、情報交換・研修会の開催等を行った。外部研修は、オンライン研修に参加。毎月の内部研修では、体験型研修を継続し、現場に活かせる研修に取り組んだ。今後は、根拠と専門性のある認知症ケアができる職員が増えるよう取り組みたい。



令和5年度 萩市デイサービスセンターさんみ苑 実績

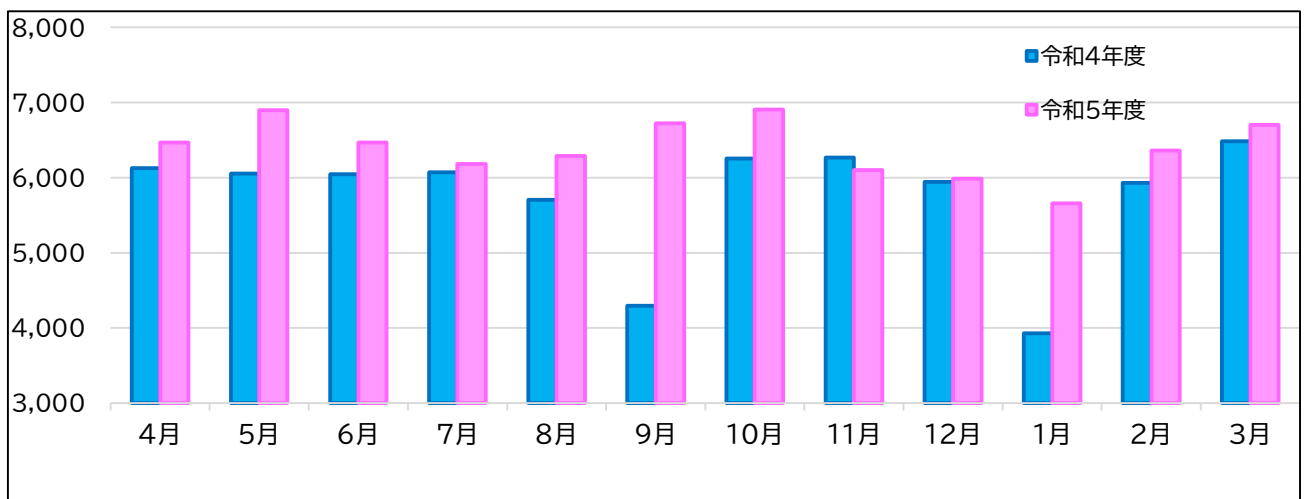
対 前年度収入比較 (概算利用者負担額含)

(単位:千円) ※千円以下切捨て

令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
保険請求額	5,247	5,182	5,198	5,259	4,889	3,700	5,379	5,336	5,112	3,398	5,108	5,646	59,454
一部負担/公費	609	604	606	606	569	424	620	613	592	389	589	590	6,811
介護保険総額	5,856	5,786	5,804	5,865	5,458	4,124	5,999	5,949	5,704	3,787	5,697	6,236	66,265
萩市介護予防教室	90	87	75	72	66	60	84	90	93	72	93	105	987
利用者負担額	30	29	25	24	22	20	28	30	31	24	31	35	329
介護予防教室事業総額	120	116	100	96	88	80	112	120	124	96	124	140	1,316
共生型生活介護	144	144	136	104	153	87	137	186	113	48	105	105	1,462
利用者負担額	7	8	7	5	7	4	7	10	5	2	5	5	72
共生型生活介護事業総額	151	152	143	109	160	91	144	196	118	50	110	110	1,534

令和5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
サービス費/公費	5,799	6,147	5,766	5,486	5,567	6,017	6,188	5,407	5,338	5,053	5,622	6,004	68,394
利用者負担(自費)	410	451	419	412	421	449	449	403	386	360	406	420	4,986
介護保険総額	6,209	6,598	6,185	5,898	5,988	6,466	6,637	5,810	5,724	5,413	6,028	6,424	73,380
萩市介護予防教室	105	90	93	96	99	87	78	87	90	87	108	93	1,113
利用者負担額	45	40	45	41	45	39	35	39	43	37	49	45	503
介護予防教室事業総額	150	130	138	137	144	126	113	126	133	124	157	138	1,616
共生型生活介護	105	157	139	139	147	123	147	155	122	114	163	130	1,641
利用者負担額	6	12	9	10	11	7	10	11	9	8	10	9	112
共生型生活介護事業総額	111	169	148	149	158	130	157	166	131	122	173	139	1,753

総額	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度	6,127	6,054	6,047	6,070	5,706	4,295	6,255	6,265	5,946	3,933	5,931	6,486	69,115
令和5年度	6,470	6,897	6,471	6,184	6,290	6,722	6,907	6,102	5,988	5,659	6,358	6,701	76,749



令和5年度 萩市デイサービスセンターさんみ苑実績

対前年度月別利用延べ人数/稼働率比

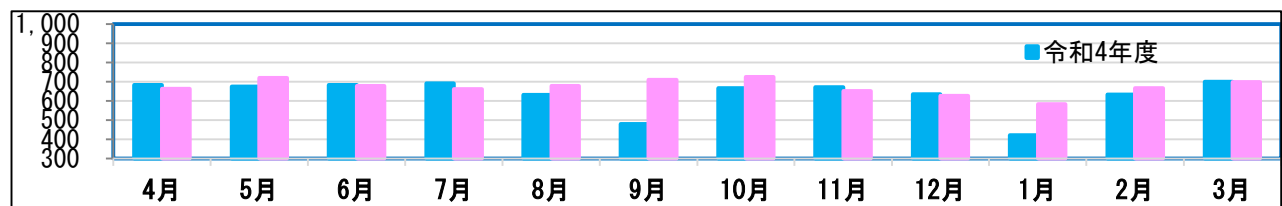
(単位:人)

令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
萩市介護予防教室	30	29	25	24	22	20	28	30	31	24	31	35	329
共生型生活介護	18	18	17	13	19	11	17	23	14	6	13	13	182
介護保険通所介護/介護予防・日常生活支援総合事業	635	629	641	655	591	449	621	620	590	391	589	652	7,063
事業対象	11	13	9	7	8	8	8	8	10	4	8	10	104
要支援1	18	21	27	28	26	21	25	20	15	8	16	32	257
要支援2	68	60	72	74	66	56	59	70	58	36	56	58	733
要介護1	246	253	268	267	235	187	263	263	272	199	292	318	3,063
要介護2	204	203	189	205	169	124	168	162	158	107	151	181	2,021
要介護3	56	55	52	50	67	37	77	75	60	27	43	38	637
要介護4	28	20	19	20	15	12	17	17	13	3	12	12	188
要介護5	4	4	5	4	5	4	4	5	4	7	11	3	60
合計	683	676	683	692	632	480	666	673	635	421	633	700	7,574
稼働率(定員50)	53%	52%	53%	53%	51%	48%	51%	52%	47%	35%	53%	52%	50%
介護保険事業稼働率	49%	48%	49%	50%	47%	45%	48%	48%	44%	33%	49%	48%	47%

令和5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
萩市介護予防教室	35	31	35	32	35	30	27	30	33	29	37	34	388
共生型生活介護	13	19	17	17	18	15	18	19	15	14	20	16	201
介護保険通所介護/介護予防・日常生活支援総合事業	614	671	627	612	626	665	680	603	579	541	611	648	7,477
事業対象	8	8	15	12	15	11	12	15	12	11	15	17	151
要支援1	29	28	24	24	27	24	25	24	24	22	24	28	303
要支援2	40	52	50	63	63	55	59	67	58	49	55	55	666
要介護1	277	292	261	278	258	295	285	224	205	188	212	215	2,990
要介護2	204	220	206	181	212	218	226	192	196	191	216	233	2,495
要介護3	40	57	45	46	51	61	69	78	81	78	85	93	784
要介護4	13	11	24	8	0	0	0	0	0	0	0	4	60
要介護5	3	3	2	0	0	1	4	3	3	2	4	3	28
合計	662	721	679	661	679	710	725	652	627	584	668	698	8,066
稼働率(定員50)	53%	53%	52%	51%	50%	55%	56%	50%	48%	49%	56%	54%	52%
介護保険事業稼働率	49%	50%	48%	47%	46%	51%	52%	46%	45%	45%	51%	50%	48%

利用者延べ人数

(稼働日数)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度	683	676	683	692	632	480	666	673	635	421	633	700	7,574
(稼働日数)	26	26	26	26	25	20	26	26	27	24	24	27	309
令和5年度	662	721	679	661	679	710	725	652	627	584	668	698	8,066
(稼働日数)	25	27	26	26	27	26	26	26	26	24	24	26	309



平均介護度

令和4年度	1.5
令和5年度	1.5

中重度ケア体制加算

(延べ利用者数での割合30%≦で加算算定)

令和4年度	14.7%	算定不可
令和5年度	13.6%	算定不可

認知症加算

(延べ利用者数での割合20%≦で加算算定)

令和4年度	19.7%	算定不可
令和5年度	16.3%	算定可

※令和6年4月1日の介護報酬改定により、15%≦で算定可と変更になり、算定可

解説と分析

令和5年度は、コロナウイルス感染拡大による閉所等はなく、利用者数は、ほぼ横ばいの状態となっているが、感染症のイメージの影響や家族の介護力の低下により、新規利用者の低下(外出を控える・感染への不安)、体調不良時の自宅療養の長期化、入院・入所の増加が継続的にみられ、結果的に利用者数は伸びていない。(50名定員：稼働率50%)

中重度ケア体制加算は、来年度も算定不可。

認知症加算については、令和6年の報酬改定により、割合が15%以上で算定可となったため、来年度も引き続き算定となる。令和5年12月に、認知症実践者研修を1名修了したため、安定した加算の算定ができている。引き続き、サービス内容の充実、エリアの拡大、要支援・自立・障がいがある方の利用受け入れ等、積極的に行なう。

居宅介護支援事業所 さんみ苑

重点事業方針取組結果（総括）

在宅の希望はあっても、家族の介護力やサービス利用の限界により、住み慣れた家での生活を断念するケースは、年々増えている。入院入所せず、どうしたら自宅に住み続けられるのか、個別のケースだけでなく、地域・多職種で連携、検討し支えていけるよう取り組んだ。事業所内での、週1回のケース検討だけでなく、通所介護事業所や、他事業所との事例検討会、三見地域ケア会議、各種の研修会に参加し、自身の関わりを振り返り、課題とらえ、広い視野で考え、関係機関と連携できるように努力した。今後も各自スキルアップに努め、選ばれる居宅介護支援事業所を目指す。

居宅介護支援事業

コロナウイルスが5類分類になったものの、感染に対する危機管理は厳しく、一旦途切れた支援を再構築することは難しかった。

在宅での医療依存度の高い方は、増えており、各ケアマネージャーの退院・在宅復帰時の医療機関との連携の能力は向上している。医療、介護の場での人材不足により、支援体制も苦慮することが多かった。インフォーマルな支援の活用が推奨されているが、責任の問題等もあり課題は多い。虐待防止委員会による、定期的な不適切ケアのチェックリストの実施は、対人援助職の原点に立ち返るものとなり、職員の虐待防止に対する意識が高くなっている。

介護予防委託事業

積極的に要支援1.2の方を担当するよう努めた。

要支援から要介護に重度化しないように、サービスや社会資源の調整等を行い、介護予防に努めている。

包括支援センターへの啓発、連携を図った。

その他報告事項

1. 感染症対策

感染症対策に留意しながら、本人・家族に不利益をもたらさないよう、原則訪問に努めた。市外や県外に居住する、帰りたくても帰れない家族に、情報提供等をしっかり行い、離れていても家族でできる支援は、協力依頼をした。しかし、家族に代わる対応を求められることは多く、課題は残る。

2. 経営

入院入所で、在宅生活の継続できるケースは、横ばいであった。介護予防居宅介護支援費の一件当たりの単価は要介護者の半分しかなく、介護支援専門員の支援対応の手間も多いが、要支援の件数が増えているため、総収入は少

しではあるが、増収となっている。

3. カスタマーハラスメント

ケアマネージャーとして、利用者家族に真摯に向き合い、説明責任を果たすよう努めたが、本人や家族が求めるものと合致できず、対応に苦慮したケースも多くみられた。今後も、利用者、家族に寄り添い、ニーズの把握と適切な対応に努めていく。

4. 職員のスキルアップ

萩市の事例検討会をはじめ、多くの事例検討会に参加し、自省することも多かった。今後も、自己研鑽し、個々の強みを活かせる支援ができるよう努める。

5. 障害者への関わり

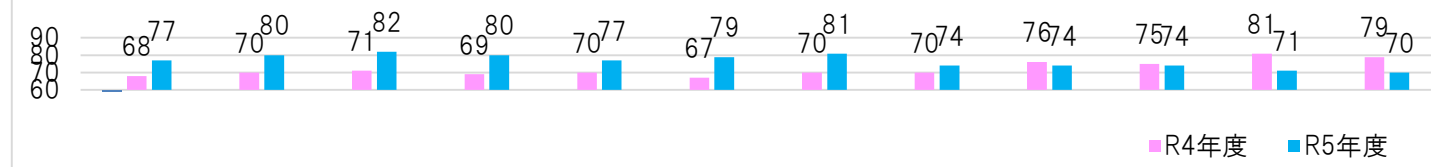
障がい施策から高齢施策への移行対応の支援を円滑にできるように、法人内でも、研修、事例検討会を開催した。依頼があれば、移行ケースや障害のある高齢者のケースを積極的に受け入れた。今後もスキルアップし、移行の際には選ばれる事業所を目指す。

令和5年度(表1)

対前年度要介護利用者数比較 ※要支援含まず

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R4年度	68	70	71	69	70	67	70	70	76	75	81	79	866
R5年度	77	80	82	80	77	79	81	74	74	74	71	70	919

利用者数



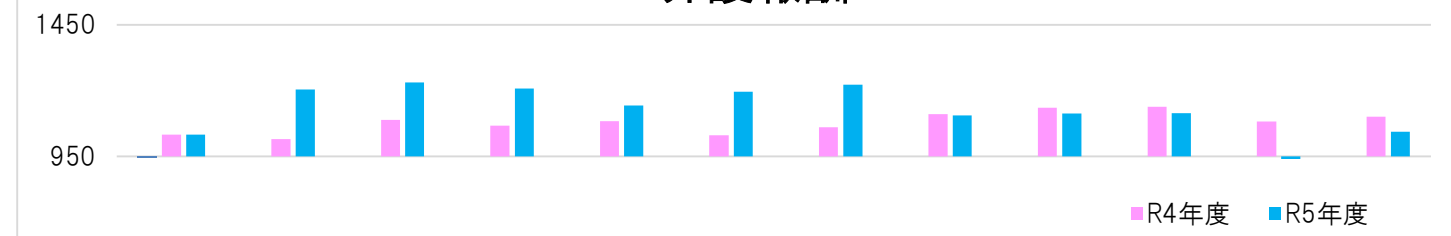
対前年度介護報酬比較

(単位:千円)

※予防給付含まず

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R4年度	1,033	1,016	1,089	1,067	1,085	1,030	1,061	1,111	1,135	1,139	1,083	1,102	12,957
R5年度	1,033	1,205	1,232	1,209	1,144	1,195	1,223	1,106	1,113	1,115	422	1,044	13,041

介護報酬



対前年度比 3月現在の介護度別人数

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
R4年度	8	12	36	23	10	2	8	99
R5年度	9	15	32	22	10	2	4	94

*要支援1に事業対象者含む

対前年度比初回加算対象件数(要介護)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R4年度	1	5	2	3	2	2	4	1	10	5	7	2	44
R5年度	0	5	3	1	2	3	2	1	1	3	1	1	23

対前年度比初回加算対象件数(要支援:予防給)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R4年度	0	0	0	2	1	1	1	0	1	1	2	0	9
R5年度	1	0	2	0	1	3	0	1	0	1	0	0	9

対前年度比介護報酬比較(要支援:予防給付)報酬額単位円(件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R4年度(件数)	17	16	17	17	18	18	17	17	19	20	19	20	215
R4年度(委託報酬)	67,014	63,072	73,014	67,014	76,956	70,956	67,014	73,014	86,898	90,840	74,898	84,840	895,530
R5年度(件数)	21	20	22	22	24	26	27	28	28	24	25	26	293
R5年度(委託報酬)	88,782	78,840	98,724	96,576	100,608	116,550	109,434	116,376	110,376	100,608	98,550	102,492	1,217,916

解説:分析

コロナウイルスにより、市外家族の感染対策で、支援が難しくなったこと、要介護認定の軽度の判定により、独居の支援構築が難しくなったことに加え、特別養護老人ホーム入所が、以前よりも安易になったことにより、在宅生活の継続を断念する傾向にある。介護度別人数にあるように要支援から要介護2までの比較的軽度方を、重度にならないように予防し、在宅生活が継続できるよう努める。

R6.2月の介護報酬については、特定事業所加算算定要件において、定期的な月一回の訪問が1名できていなかったため、全体の報酬が50%減となった。二度と起こらないよう再発防止に取り組む。R6.4月からは、常勤3名との確保と諸体制が整っていないため、特定事業所加算の算定はしていない。今後、常勤2名でも算定できる特定事業所加算Aの取得を目指す。

萩市在宅介護支援センターさんみ苑

重点事業方針取組結果（総括）

萩市事例検討会、地域在宅介護支援センター連絡協議会・勉強会、各種研修へ積極的に参加し、居宅介護支援事業所の介護支援専門員や他の在宅介護支援センター相談員との情報共有や意見交換・課題解決等も円滑に行うことができています。地域の把握、課題の解決にも、地域と連携し取り組むことができた。医療との連携については、病院相談員と入退院時に必要な情報共有を行い、本人家族が困らないよう、在宅の調整を行うことができています。今後は、地域の方と連携し、住み慣れた地域で住み続けられるような地域づくりが課題となる。

総合相談支援事業（地域包括支援センターサテライト業務）

1. 認知症予防

地域から認知症の方の対応、関わりに関する相談が数件あり、対応している。困難ケースについては、包括支援センター職員と同行し、検討・対応することができている。今後は、地域住民へ、認知症への理解を深めてもらうよう啓発を行う。

2. 閉じこもり・詐欺・虐待防止を目的とした訪問活動

地域とのかかわりが少ない、閉じこもりがちなケースは、繰り返し訪問し、サービスや社会資源等の説明を行った。

3. 処遇困難ケース

生活の中のリスク等を関係者と共有し、重点的な訪問活動・関係者との協働し、解決・改善に向けて対応した。

4. 介護保険制度に対する支援

要介護認定が出た後も、サービスを利用につながないケースに関しては、電話や訪問を行い、状態に応じて有効期限が切れないよう調整・支援した。

5. 啓発活動

三見・山田地区に向けて、さんみ苑だよりを、毎月1回継続して発行し、好評を得ている。地域サロンへ定期的に参加し、住民の相談や課題を聞き取ることもできている。住民から介護保険制度についての問い合わせがあれば、個別に説明・対応に加え、サロンや施設の職員に向けての説明の機会も持つことができた。引き続き、在宅介護支援センターの業務内容について、啓発の機会を持って行く。

6. 民生委員、福祉員との連携強化

民生委員との情報共有を積極的に行い、同行訪問するケースも増えてきている。対応が困難なケースについては、包括支援センターへ相談し、連携することができている。今後は、福祉員との連携も密にし、地域の把握ができるよう努め

る。

7. 職員のスキルアップ

今年度も萩市が行う事例検討会や事業所内のケース検討にも積極的に参加し、アセスメントや課題解決に向けての取り組みを学ぶことができた。検討会に継続的に参加することで、自らの課題に気づくこともできた。今後も、研修や検討会に積極的に参加し、相談員としての質を向上に取り組む。

8. 「地域包括ケアシステム」を念頭に置いた地域包括支援センターとの連携強化

民生委員・福祉員協議会／各地区サロン／三見・山田・木間生活支援サービス体制事業協議体へ積極的に参加し、情報共有や個別対応はできていた。地域包括支援センターとは、情報や課題の共有に努めた。

2月には、旧萩市内では初となる(地域を限定し、定期開催する)、地域ケア会議を三見で立ち上げた。今後、三見地域の防災、地域の課題解決、情報共有を行っていく予定。

令和5年度萩市在宅介護支援センターさんみ苑 実績

相談実績累計

	相談形態別累計						その他	夜間	台帳登録者数	
	電話	来所	訪問	FAX	会議	その他	計	調整回数 (再掲)	実数	
R4	617	9	506	9	18	622	1781	42	21	2
R5	542	8	414	10	14	666	1654	7	7	0

相談内容累計

	生活支援・予防事業										介護保険サービス			医療			認知				
	配食	外出支援	寝具類洗濯 乾燥消毒	ヘルプサービス	訪問理美容	介護予防・特定	デイサービス	生活支援 ショートステイ	緊急通報装置	家族介護者支援	その他福祉 サービス	在宅サービス	施設サービス	その他	入院	退院	その他	本人	家族・親族	関係機関	その他
R4	272	0	0	0	2	21	15	2	200	15	33	43	11	93	21	18	35	27	0	1	6
実人数	42	0	0	0	2	10	14	2	108	11	22	27	7	46	15	14	24	15	0	1	5
R5	160	0	0	0	0	7	1	0	147	39	51	8	8	92	22	11	92	25	2	0	3
実人数	33	0	0	0	0	7	1	0	80	20	33	6	5	48	16	8	35	12	2	0	3

	精神			家族・親族 関係		虐待			成年後見			その他			合計			
	精神疾患	アルコール依存	閉じこもり その他	家族・親族 関係のトラブル	地域との トラブル・ 苦情	その他	高齢者	障害者	一般	その他	市長 申し立て	高齢者	障害者	その他		権利 擁護	実態 把握	その他
R4	0	0	1	4	1	5	1	0	0	0	1	0	0	0	0	72	332	1222
実人数	0	0	1	2	1	3	1	0	0	0	1	0	0	0	0	64	131	569
R5	0	1	0	6	6	1	3	0	0	0	2	0	0	0	1	107	287	1096
実人数	0	1	0	3	2	1	3	0	0	0	1	0	0	0	1	96	106	522

対応実績累計

	相談	情報提供	連絡調整	家庭訪問	取次斡旋	ケース検討	申請代行	会議	研修	苦情	その他	合計	サービス適用 実人数	サービス開始 人数
R4	816	290	315	381	4	1	63	17	0	0	20	1907	375	63
R5	715	95	170	275	0	0	59	13	0	1	67	1395	344	59

実態把握加算の実績

	実施月												合計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
R4	2	13	15	20	22	19	17	17	13	10	12	25	195
R5	5	11	15	13	15	21	11	2	7	2	9	6	117

求めている支援類型

	ケアマネジメント	社会資源の紹介	対人援助	制度説明確認	研修学習	個人の悩み事	同行訪問	その他	合計
R4	0	0	824	186	0	97	10	32	1149
R5	0	0	838	27	0	19	1	63	948

地域活動

	地域サロン	体力測定	地域生活体制整備事業	徘徊見守りネットワーク会議	地域行事	地域ケア会議
R4	55	1	19	0	0	0
R5	79	1	15	0	1	2

解説と分析

相談実績累計:大きく変動なし。

相談内容実績:医療に関する相談、関係家族間のトラブル、虐待に関する相談が増加。

対応実績累計:相談、情報提供、家庭訪問は減少している。

実態把握加算の実績:実態把握は昨年より増加。より多くの新規の訪問に努めた。

求めている支援類型:社会資源の紹介が0になっているが、制度説明確認の分類でカウントしている。

回数は減っているが、個別ではなく、集団に対しての説明が多くなった。

地域活動:コロナが落ち着き、サロンが頻繁に開催されるようになり、昨年よりも更に積極的に参加した。地域活動に参加することで、相談からサービスに繋げることも出来ている。地域からの相談数も増えている。困難ケースに関しては福祉関係者のみならず、医療関係機関と連絡を取りあい、対応に努めた。今年度は、今まで三見地区になかった地域ケア会議を立ち上げることができた。今後は、会議を活用し、情報の共有・地域との連携が密にできるよう努めていく。

ひじわらグループホーム（共同生活援助事業）

重点事業方針取組結果（総括）

新型コロナウイルスに利用者が罹る事なく令和5年度を終える事ができました。職員2名の感染はあったものの、ホーム内での広がりはありませんでした。また今年度は新型コロナウイルスが5類になった事もあり、利用者の余暇支援として市外へ活動の幅を広げていきました。県立美術館で行われたジブリ展や元乃隅稻成神社へのドライブ。一番大きなイベントとしてはさんみ苑グループホームと一緒にpaypayドームでの野球観戦に行ったことでした。普段行く事の出来ないイベントに参加する事ができ、利用者の満足度は高かったと思います。参加した利用者からはまた行きたいと言われていました。

5月に新しく無田ヶ原にグループホームが開設されたのを機に、むたがはらほ一む（司ほ一む）がなないろ管轄となりました。今まで3か所のホーム運営を行って参りましたが、2つのホーム運営となり職員の負担は軽減したのではないかと考えられます。

第2 ひじわらほ一む

今年度、2名の退所者がありましたがすぐに満床となりました。利用されている方の身体状況の確認が必要となってきています。階段の昇降時には踏み外しがないよう職員が見守りを行っています。住環境では、利用者用冷蔵庫を大きくし、たくさんの物が保存できるようにしました。

ひじわらほ一む

浴槽の高さがあり、利用者が浴槽を跨ぐ際に転倒する可能性が出てきました。体のバランス確保が難しくなっており生活を送る事にも注意を払う場面が多々出てきました。また高齢化も進み、意欲の低下や服薬調整など医療との連携が必要になる部分が大いに出てきています。年度途中で1名の方が別のグループホームに移動となり、1室空きが出ました。見学者や体験者の受け入れを行い、利用へ繋げていきたかったのですが、今現在利用される方がいない状態です。

令和5年度実績報告

	開所日	定員数	延べ利用数	実利用者数	利用率	備考
4月	30	16	442	15	91	
5月	31	11	283	10	91	
6月	30	11	294	10	98	
7月	31	11	289	10	93	
8月	31	11	260	10	83	
9月	30	11	297	10	97	
10月	31	11	295	9	95	
11月	30	11	293	10	94	体験1名
12月	31	11	296	9	81	
1月	31	11	292	9	84	
2月	29	11	283	9	81	
3月	31	11	305	9	81	

地域活動支援センターふらっと

重点事業方針取組結果（総括）

5年度は利用する方が増えていきました。ふらっと開所当時は月の利用平均が5人程度でしたが、5年経った今、1日の利用平均が11人になる月もありました。利用者が多い時には活動部屋と会議室に分散して対応を行いました。

こころの医療センターや山口市の相談機関、県健康福祉センターからも利用者の受け入れをお願いされ対応を行いました。

職員体制としては3月末に常勤職員1名が退職となり、今まで2名いた常勤職員が1名となり常勤1名・パート1名でのスタートとなりました。その中で6月に常勤職員がけがを負ってしまい3か月間の休業となってしまいました。パート職員1名で事業を行う事が出来ない為、各事業所に応援をお願いし快く対応して頂きました。各事業所2~3名の職員が曜日を替え来てくださり、併せてふらっとの事業を知ってもらう良い機会にもなりました。各事業所の協力のもと事業を継続させる事ができ、9月には常勤職員の復帰、8・9月にはパートが新たに2名増員となり、職員体制も充実していきました。

活動に関しては、外出活動も積極的に取り入れてきました。益田市にあるA型が行っている牧場へ行き、馬やひつじ、うさぎなどに触れる事ができ貴重な体験をする事ができました。また昨年度出来なかったクリスマス会も高大の広間を借り美味しい料理を食べながらゲームなどで楽しいひと時を過ごす事ができました。卓球バレー大会にも2年連続出場し今年は3位に入りました。活動でも取り入れている卓球バレーでこのような成果が出る事は利用者にとっても遣り甲斐がある活動となっています。

R5年度	延べ人数	利用人数(人)	開所日数(日)	平均人数(人) ※強化のみ (時間外含む)	登録者数	平均利用人数(全体)
R5.4	196	(基礎7 強化182 時間外7)	19	9.9	85	10.3
R5.5	201	(基礎10 強化188 時間外3)	18	10.6	85	11.2
R5.6	210	(基礎9 強化201 時間外0)	20	10	85	10.5
R5.7	192	(基礎3 強化189 時間外0)	17	11.1	86	11.3
R5.8	181	(基礎7 強化174 時間外0)	17	10.2	88	10.6
R5.9	233	(基礎8 強化225 時間外0)	20	11.2	88	11.7
R5.10	222	(基礎2 強化217 時間外3)	20	11	89	11.1
R5.11	239	(基礎6 強化228 時間外5)	21	11	90	11.4
R5.12	239	(基礎4 強化229 時間外6)	21	11	90	11.4
R6.1	179	(基礎7 強化166 時間外7)	19	9.1	90	9.4
R6.2	195	(基礎6 強化182 時間外7)	19	9.9	90	10.3
R6.3	171	(基礎8 強化158 時間外5)	17	9.5	90	10.1

ヘルパーステーション みらい

重点事業方針取組結果（総括）

新型コロナウイルスに職員が罹患し、業務を縮小せざるを得ず、利用者の方にはご迷惑をかけてしまいました。ただ幸いにも訪問先での広がりがなかった事は安堵する所です。訪問件数に関しては例年と然程変化はありませんでした。新規利用者を増やすために相談支援事業所等へ声かけを行い、8件の新規利用者を増やす事が出来ました。新規を増やしていく事と並行に部内の接遇意識への取り組みも行っていました。ヘルパーは利用者宅で1対1の対応となるため、ヘルパーの声かけや対応の仕方が分かりません。職員自身は対応が出来ていると思っても、利用者の方がどのように感じているのかが分からない為、今一度自分たちの対応を考えていくきっかけ作りとしてチェックシートの活用を行い、部内での共有を行っていました。今後もみらいへの利用希望が上がるように相談支援事業所等との連携を強化していきます。

障害者介護給付事業

以前から使われていた人が亡くなったり、施設入所になったりと利用者の変化があった年でした。新しく利用される方も継続的な利用も難しい方が多く、対人関係に難しさを抱えている方の支援では利用のキャンセルが続くなど対応に苦慮する場面がありました。その中でもみらいが入ってくれた事がよかったとの声も聞く事が出来ました。同行援護では4件の登録があり、下関まで支援を行う事もあります。

介護保険事業

4名の方が利用されています。利用されている方はまだ少ないですが、今年度障害から介護保険に移行になった方もいらっしゃいます。障害と介護を並行利用しながら在宅生活を送られるよう支援をおこなっております。

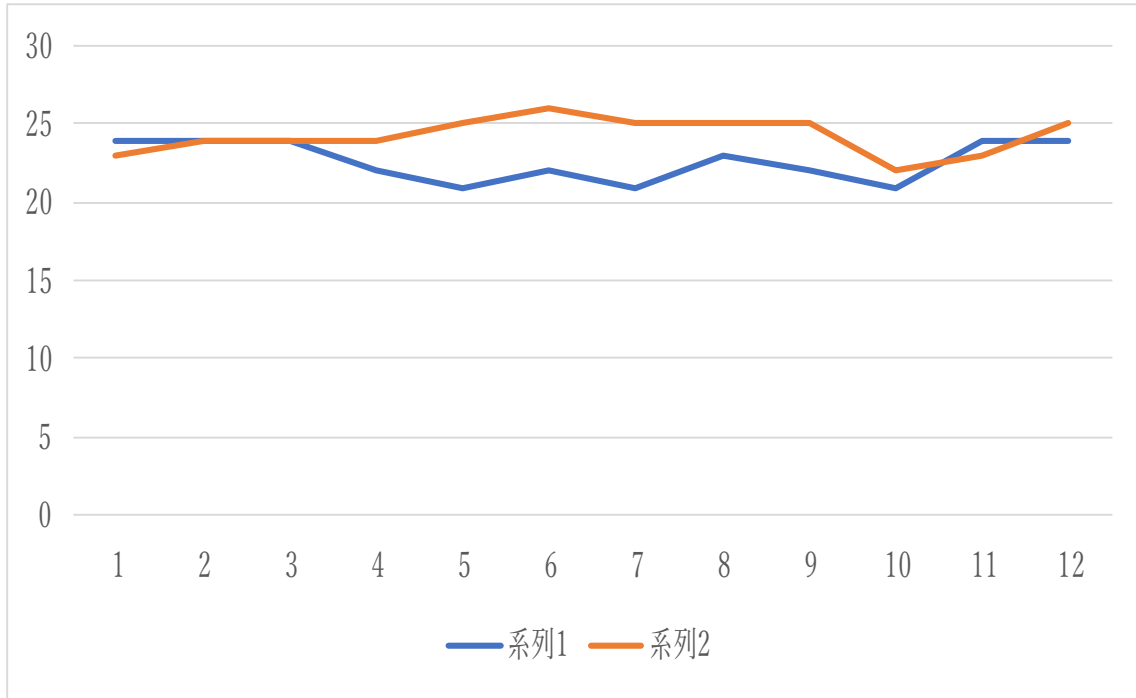
地域生活支援事業

今年度は3件の新規利用がありました。主には買い物や通院支援となっております。サービスの枠に柔軟さがあるため、移動の際などの支援として利用される方が増えてきています。

有償サービス

通院支援として利用されていた方が令和6年1月に介護保険事業に移行されました。その為、今現在は利用されている方はいらっしゃいません。

令和4年度と令和5年度の利用者数の比較



		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
—	令和4年度	24	24	24	22	21	22	21	23	22	21	24	24
—	令和5年度	23	24	24	24	25	26	25	25	25	22	23	25

萩市障害者生活支援センター ほっとすぺーす

重点事業方針取組結果（総括）

ほっとすぺーす職員一人一人が相談支援専門員としての自覚を持ち動く事を意識し日々の業務に取り組んでもらった。ほっとすぺーすは萩地域の相談支援の中心となっている所がある。その為、様々な相談が入ってくる。その相談一つ一つを丁寧に対応し断らない相談支援を目指してきた。事業所内の連携強化も重要視し主任を中心に朝礼の仕方や新規相談の対応方法など、みんなで話し合いを行いながら形を作っていた。

萩市との連携強化も行い、萩市の相談支援の強化が今後の課題である事を伝えた。その中で、ほっとすぺーすが全ての相談支援を受け持つのではなく、相談者が自分の意思で相談支援事業所を選択できるよう相談支援事業所を増やしてほしい事などを萩市には働きかけている。

萩市基幹相談支援センター

他機関との連携が沢山あった年だった。基幹相談支援センターとしての立ち位置はまだしっかりと確立されていないが、相談の入り口として様々な相談は受け入れてきた。包括支援センターや市民活動推進課、また山口県の相談支援部会で萩市の相談支援の取り組みとして実情を話す機会もあり多岐にわたり活動を行ってきた一年であった。課題としては、自立支援協議会の中身の充実が出来ておらず、今年度は大きな結果が出せなかった。協議会が立ち上がって5年が経過する中で、各専門部会の在り方やメンバー構成など、萩市との協議が必要であるが、協議自体が上手くできなかった事が反省であった。

指定特定相談支援事業

令和5年度特定相談のケース数は286ケース。昨年度より20ケース程少なくなった。これは、介護保険に移行するケースが増えてきている為である。障害者の入所施設から高齢の入所施設に移行するケースが増えてきており、そのために相談支援専門員もケアマネージャーと連携する事が増えてきた。以前より障害者の高齢期移行が課題となってきた中、主任相談支援専門員が中心となり移行に向けて関係機関との連携強化を行っている。法人内でも高齢期移行の研修を行う事でそれぞれの制度を知る事から始め、事業所で抱えている高齢期移行の課題を抽出しみんなで考え、利用者様がこれから先自分の背丈にあったサービスを受けられるように今後も連携や勉強を続けていく。

また、精神障害者や発達障害者の方達への対応の難しさも感じている。そのため病院との連携を強化したい所であるが、福祉と医療の連携の難しさも感じた一年であった。

指定障害児相談支援事業

今年度、新規が 14 名と例年とほぼ同じくらいの利用者数であった。保育園や学校に本児の様子を教えていただく中で、相談支援専門員の訪問の仕方などが課題となっている。モニタリングをこなす事に必死となり、相談員の都合で動く事があった。自分たちの

指定一般相談支援事業（地域移行・地域定着）

地域移行については、利用希望が今年度なかった。新型コロナウイルスの関係で病院と外部との接触が難しく連携が中々出来なかった。新型コロナウイルス患者の減少が今後見込まれ、地域移行への動きが出てくると思われる。

その他報告事項

<サービス等利用計画作成対象数>

	令和 5 年	令和 4 年	令和 3 年
指定特定相談支援事業	288 人	305 人	290 人
指定障害児相談支援事業	150 人	149 人	152 人
合 計	438 人	454 人	442 人

<サービス等利用計画作成対象数障害別内訳>

*手帳は重複あり

	身体	知的	精神	発達	重心	その他	合計
指定特定相談支援事業	40 人	173 人	85 人	31 人	9 人	7 人	345 人
指定障害児相談支援事業	15 人	56 人	1 人	68 人	7 人	人	147 人
合 計	55 人	229 人	86 人	99 人	16 人	7 人	492 人

令和 5 年度相談件数

○相談件数：延べ 9,882 件

(内訳) 電話：5,273 訪問：3,065 来所：959 FAX：4 メール：288 ピア相談：12
その他：281

○相談者数：延べ 9,878 名

(内訳) 本人：3,276 家族：2,012 学校：180 事業所：2,079 保育園：88
幼稚園：50 関係機関：2,107 その他：86

重点事業方針取組結果（総括）

相談支援ではインテーク（初回面談）様式やアセスメント様式を改善した。十分なアセスメントを実施することで、よりニーズに即した方向性へ繋がられたのではと考える。

一般就労件数は前年度より微減した。新規登録者数は昨年同様であったが、インテークのみのケースや支援ニーズ（自主的に働きたい方）・福祉就労ニーズ等の要因で一般就労まで至らなかった事案があった。

当事者支援の交流会及びぴあ交流会を3回ずつ計6回実施した。悩みを話し合う企画やダンス・ウォーキングを兼ねた企画、また企業見学を実施し多くの参加をいただいた。

萩総合支援学校の作業学習を3年ぶりに開催した。生徒の作業スキルが高く参加企業の中には、雇用を考えたいとアンケート記載があった。

企業関係の障がい者雇用セミナー「懇話会」を初めて長門市のルネッサ長門で開催した。萩・長門の商工会議所並びに萩テレビ・ほっちゃんテレビ・時事新聞社・長門市報・金融機関にも協力を依頼しチラシや季刊誌に開催の告知をしていただいた。基調講演「精神・発達障害者しごとサポーター養成講座」とグループディスカッションの2部構成で行い、障がい者雇用における不安など、既雇用企業と新規企業の間で情報交換を行った。

福祉就労関係の研修会議「関係機関連絡会」では一般就労されている当事者を講師に招き、高次脳機能障害について、就業の視点や福祉・医療の視点から深掘りし理解を深めた。

雇用安定等事業

- ・就業支援担当者2名、職場定着支援担当者1名を配置し支援を行った。
- ・令和5年度、17名の登録者が一般就労に繋がった。求職過程でハローワークへの同行、見学・実習同行等、当事者の主訴に寄り添い支援を行った。
- ・新規企業開拓として、ハローワークに一般求人を出している企業を訪問し障がい者雇用の啓発、センターの説明及び研修会への参加を呼び掛けた。（約70件）

（支援例）

- ・Aさん（高次脳機能障害・てんかん）
A型の実習を行うがマッチングせず一般で求職。企業の清掃を希望し実習を行うこととなり、その際山口障害者職業センターの職業評価を受けジョブコーチ（以下JC）支援を利用しながら実習することとなる。当初評価としては、半側空間無視や失語の状態が重度とのことであった。入職後半側空間無視について、勤務を重ねるにつれ本人なりの工夫や経験値またJCからのアドバイスで状態が良化。作業の遂行や危険を回避するスキルが身につけてきて作業の幅が徐々に増えた。

生活支援等事業

- ・生活支援担当者2名を配置し支援を行った。
- ・就業に係る生活の相談助言・通院支援など、企業への就業状況の改善に向けた支援等を行った。

(支援例)

- ・Bさん(知的障害・糖尿病)
栄養食生活管理、通院服薬管理、金銭管理支援が必要なためグループホームを利用することとなる。また就業中に山口障害者職業センターのJCを利用し就業と生活両面で適切な助言を受けた。
センターと企業、JC、医療機関が連携を密にすることにより、本人が自らの課題に少しずつ前向きに捉えることができ、就業に係る健康生活面の改善に繋がっている。

その他報告事項

職員業務研修(主な)

- | | |
|------------------------|----|
| ○中国四国ブロック経験交流会議 (Zoom) | 4名 |
| ○中四国ワーカー連絡会 (Zoom) | 3名 |
| ○就業支援担当者研修(集合) | 1名 |
| ○主任職場定着支援担当者交流会 (ZOOM) | 1名 |
| ○就業基礎研修 | 1名 |

広報・啓発活動

- | | |
|---------------------|------|
| ○季刊誌発行 | 年2回 |
| ○法人HP(新着情報)への行事報告掲載 | 年12回 |